

誉め誉め月間

松の英恒例の「誉め誉め月間」がやってきました。

昨年四月、新しいお友だちを迎えて以来、一年になつたといえます。

直近の第36回松の英生作品展でいただいたお言葉に集約されるように、こどもたちは保護者皆様のおかげで、

たかいた後と賞賛をあげながら、いつも体も成長という坂道を上り、

りとした足取りで登って来ている。三月は、この一年の総まとめとして、

「はめる」ことを繰り返していただいたいと思っております。

「人間は誰でも他人から自分のことを価値ある存在だと認め、

しと願っている。」

「人間は誰でも自分自身のことと価値ある存在だと思いたい。」

つまり、人間は生まれながらにして自分を認め、自分の存在価値を確かめたいという欲求をもっている

ので、よりよく生きる力の源です。

こどもは幼い頃から誉められる体験を多くして育つていきたいと思います。感情です。

「はめる」ためには絶えぬこどもに思いを注ぎ、喜ぶと同時にこどもが何を

感じ、何を思っているのかを探る努力が必要ですよ。

こどもが今こどもを感じること、喜んで満了したり、やり遂げたという達成感をしっかりと受けとめてあげ

る。それが「誉める」ことになるのです。こどもの心に湧き上がる「できた

やったよ」という湧然とした形での喜びを喜びとめて喜びを共にする。

そのことによりこどもは手応えのある喜びや達成感、満足感を生き生きと感じることも出来るのです。

満足感とは、自分の価値を自らが認める自信になります。

自信はやる気と意欲を更に高め

ます。

「満足感ー自信ー意欲」という

びの育ちの法則性に於いて、三月もまだはじめてはめて、満足感を火山味

われせ、自信を持たせて意欲と勇気と奮い立たせてあげたいと思っております。

そして

保護者 必るべき

この一年

お子たちの成長とした仕事や言葉のいとおしさを総まとめ

めて、その時々感じた喜びと驚きと感動を交々シマ

アに交えて降り注いで来られたら、自身と、自身で誉めあげていただきたらいいです。

「誉め誉め月間」はこどもたちにも、家族必るべきのためにもあるのです。

平成26年度のしめくりは、この一年、誉め誉め年間だったと振り返って

いただくことができれば、こどもたちは自信をもつ次のステップへと翔んでくれるでしょう。

園長 福田孝子

園長 福田孝子

4月1日